

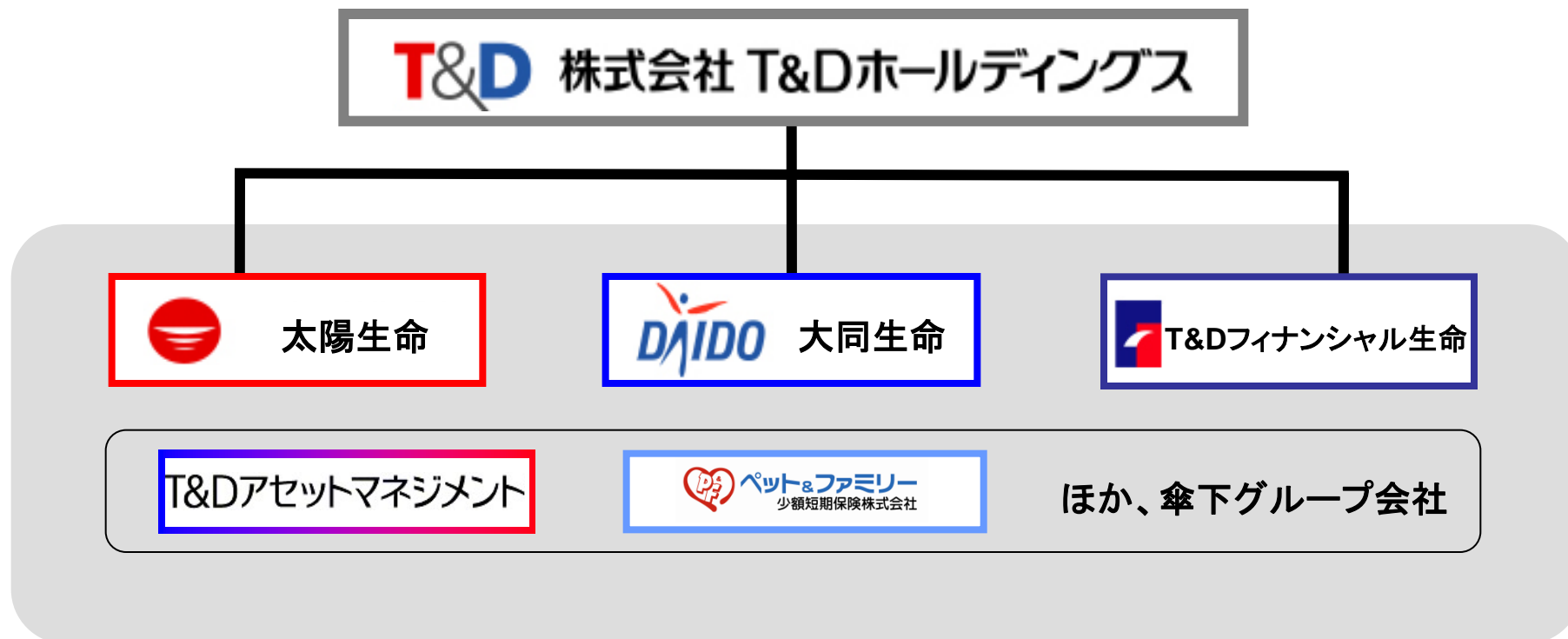
株式会社 T&Dホールディングス

(証券コード: 8795)

投資家向け説明会資料
T&D保険グループの現状

T&Dホールディングスとは

- 国内生命保険業初の上場保険持株会社。
- 太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命を中核とする生命保険グループ。
- 持株会社のもとで、各事業会社が独自性・専門性を最大限発揮。



T&Dホールディングス 株式時価総額

金融機関時価総額ランキング (2015年6月30日)

順位	社名	時価総額(億円)
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	124,657
2	三井住友フィナンシャルグループ	77,193
3	みずほフィナンシャルグループ	65,297
4	東京海上ホールディングス	38,588
5	野村ホールディングス	31,750
6	第一生命保険	28,830
7	MS&ADインシュアランスグループホールディングス	24,147
8	オリックス	24,105
9	三井住友トラスト・ホールディングス	21,882
10	損保ジャパン日本興亜ホールディングス	18,655
11	大和証券グループ本社	16,045
12	りそなホールディングス	15,536
13	T&Dホールディングス	12,437
14	日本取引所グループ	10,912
15	横浜銀行	9,413
16	ソニーフィナンシャルホールディングス	9,335
17	静岡銀行	8,507
18	千葉銀行	8,168
19	イオンフィナンシャルサービス	7,088
20	新生銀行	6,793

<全銘柄>

- ⋮
- 99 積水ハウス
 - 100 いすゞ自動車
 - 101 JXホールディングス
 - 102 ヤクルト本社
 - 103 関西電力
 - 104 T&Dホールディングス**
 - 105 丸紅
 - 106 住友化学
 - 107 TDK
 - 108 明治ホールディングス
 - 109 ANAホールディングス

⋮

*銀行・証券・リース・保険を対象

T&Dホールディングス プロフィール

証券コード	8795
市場	東証一部
決算期	毎年3月31日
売買単位	100株
総資産額(連結)	14兆6,647億円(2015年3月期)
当期純利益(連結)	942億円(2015年3月期)
2015/6/30終値	1,825円
1株当たり配当額	25円(2015年3月期)
直接子会社	太陽生命保険 大同生命保険 T&Dフィナンシャル生命保険 T&Dアセットマネジメント ペット&ファミリー少額短期保険
従業員数(連結)	19,418名(2015年3月末)

1. T&D保険グループの概要
2. T&D保険グループの独自戦略
3. 中期経営計画
4. 2015年3月期決算の概要
5. 株主還元
6. 2016年3月期 通期業績予想
7. まとめ

1. T&D保険グループの概要

T&D保険グループの歩み

■ 国内生保初の上場持株会社として発足。

1893年(明治26年)5月創立



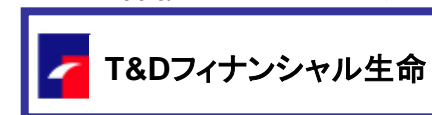
1902年(明治35年)7月創立



2001年3月経営破綻



2001年10月
T&D保険グループ入り



1999年1月 太陽生命と大同生命が全面的な業務提携
1999年6月 グループ名称を「T&D保険グループ」に決定

2003年4月
相互会社から株式会社に組織変更し、上場

2002年4月
国内生保として初めて相互会社から株式会社に組織変更し、上場

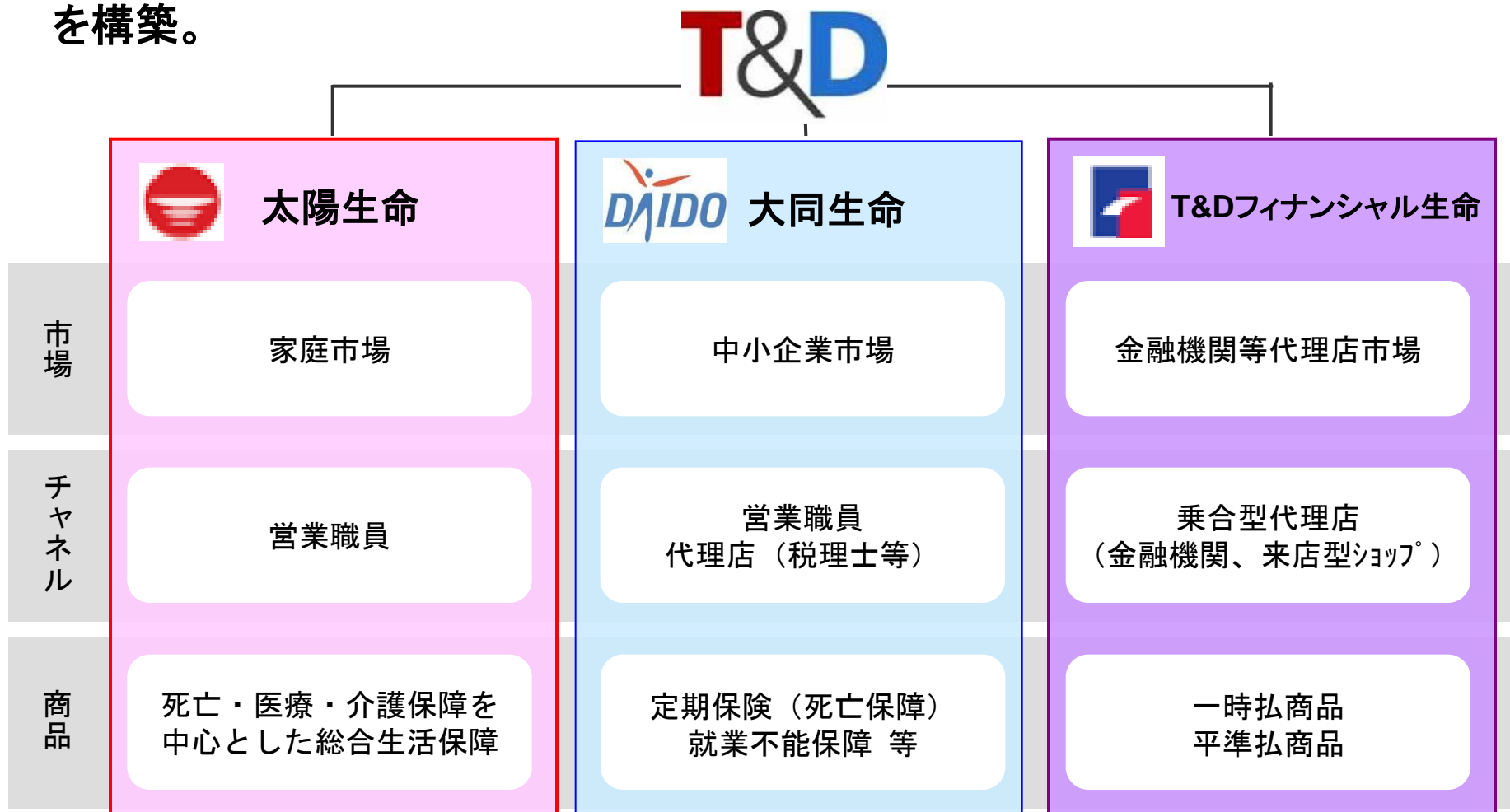


2004年4月 国内生命保険会社として初めて、持株会社「T&Dホールディングス」を設立し、上場

2007年1月 T&Dホールディングスが日本ファミリー保険企画(株)(現ペット&ファミリー少額短期保険(株))を子会社化
2007年3月 T&DホールディングスがT&Dアセットマネジメント(株)を直接子会社化

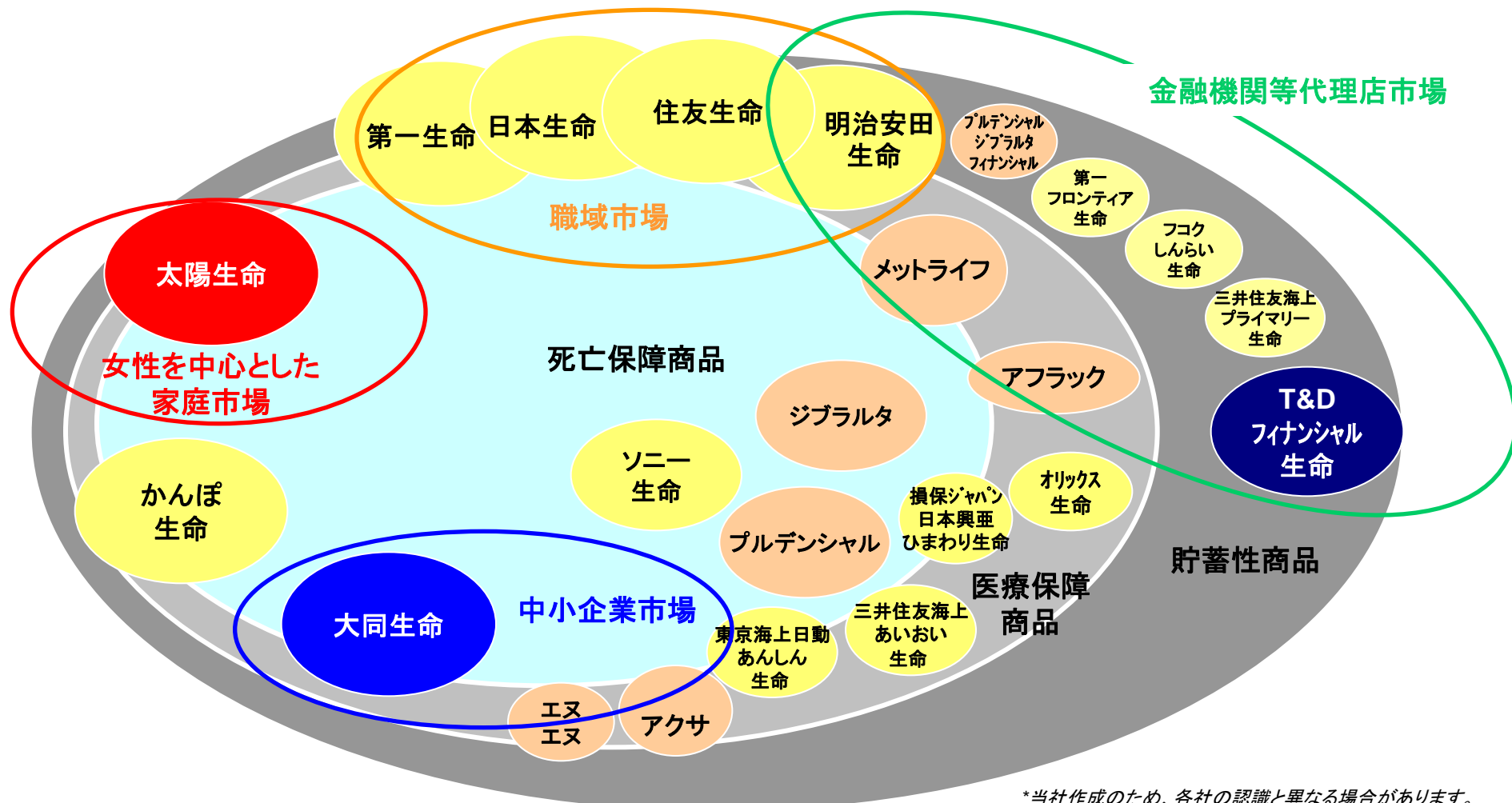
T&D保険グループのビジネスモデル

- 中核生保3社は「市場×チャネル×商品」が三位一体となった独自のビジネスモデルを構築。



中核生保3社のポジショニング

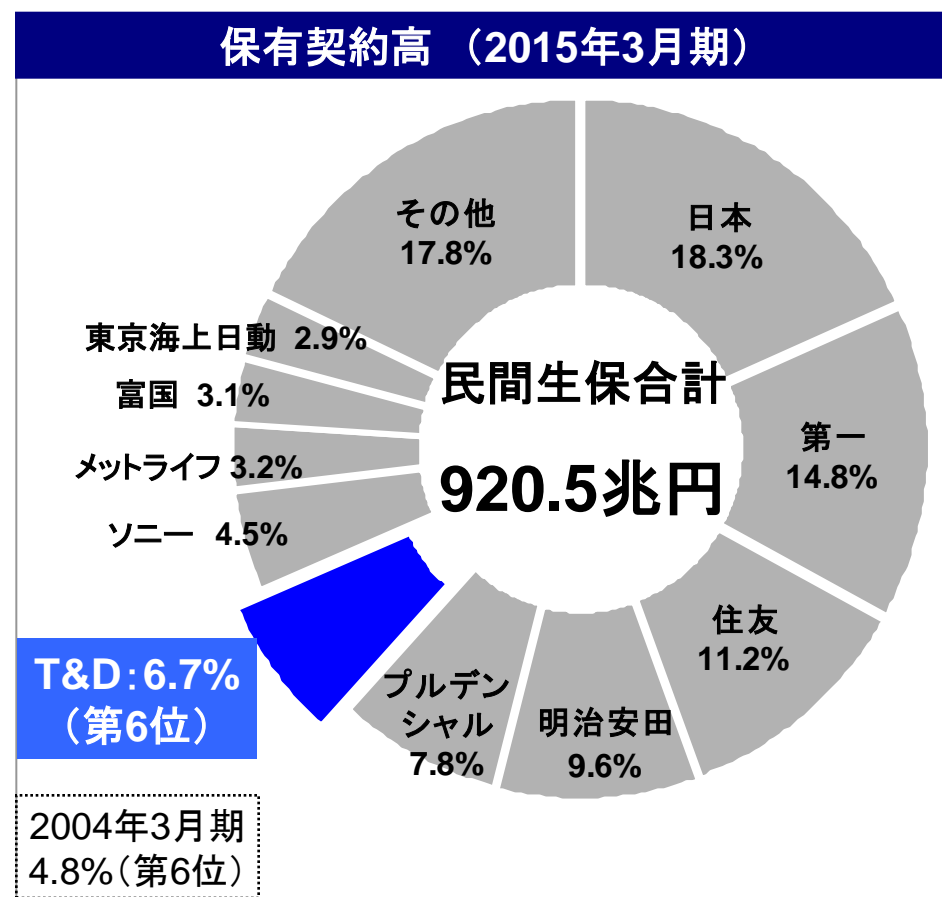
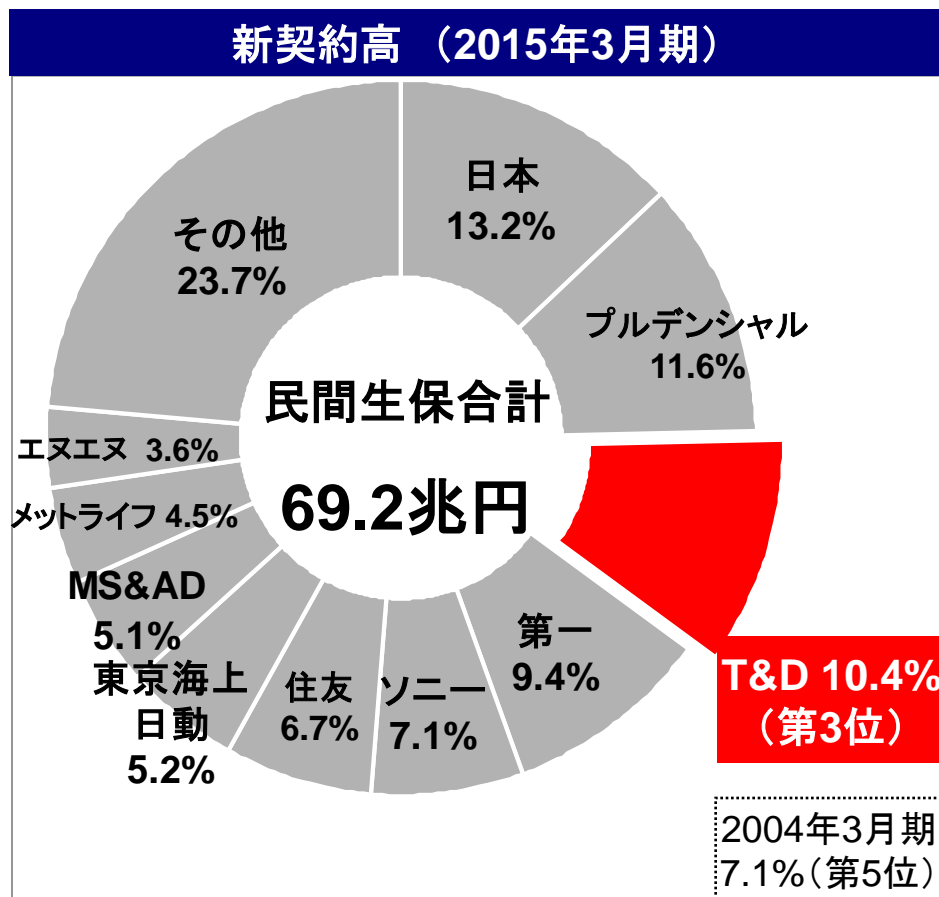
- 中核生保3社は成長ポテンシャルの高いマーケットにフォーカス。



*当社作成のため、各社の認識と異なる場合があります。

T&D保険グループの市場シェア

■ 生保市場で確固たるプレゼンスを確立。



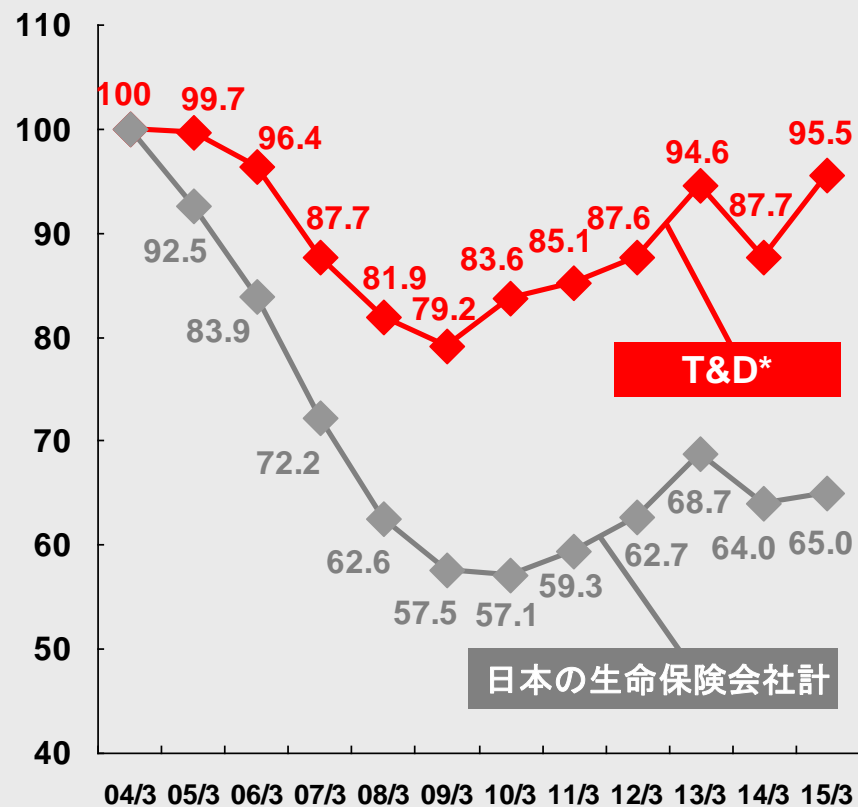
・ 出所: 生命保険協会「生命保険事業概況」、各社決算資料より当社作成。新契約高、保有契約高は、個人保険、個人年金保険及び大同生命のJタイプの重大疾病保険金額及びTタイプの就業障がい保険金額の合計。かんぼ生命は含んでいません。

** T&D: 太陽生命+大同生命(Jタイプ含む)+T&Dフィナンシャル生命、第一: 第一生命+第一フロンティア生命+ネオファースト生命、プルデンシャル: プルデンシャル生命+ジブラルタ生命+プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命、住友: 住友生命+メディアケア生命、ソニー: ソニー生命+ソニーライフ・エイゴン生命、MS&AD: 三井住友海上あいおい生命+三井住友海上プライマリー生命、富国: 富国生命+フコクしんらい生命

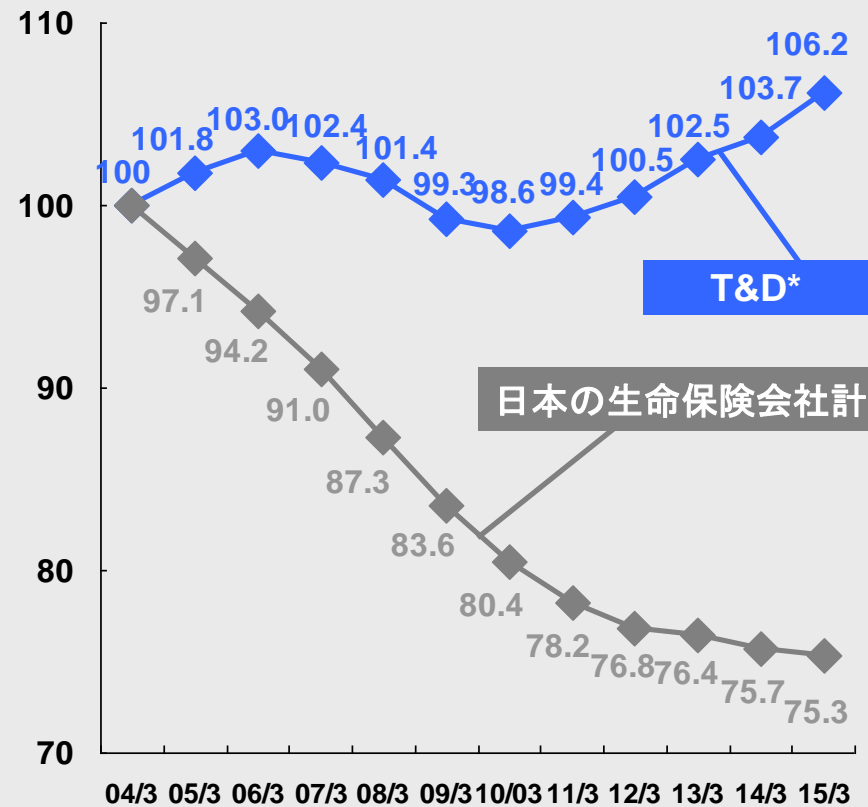
T&D保険グループの契約業績の推移

■ 業界全体が落ち込む中で堅調な業績を維持。

新契約高の過去10年間の推移



保有契約高の過去10年間の推移



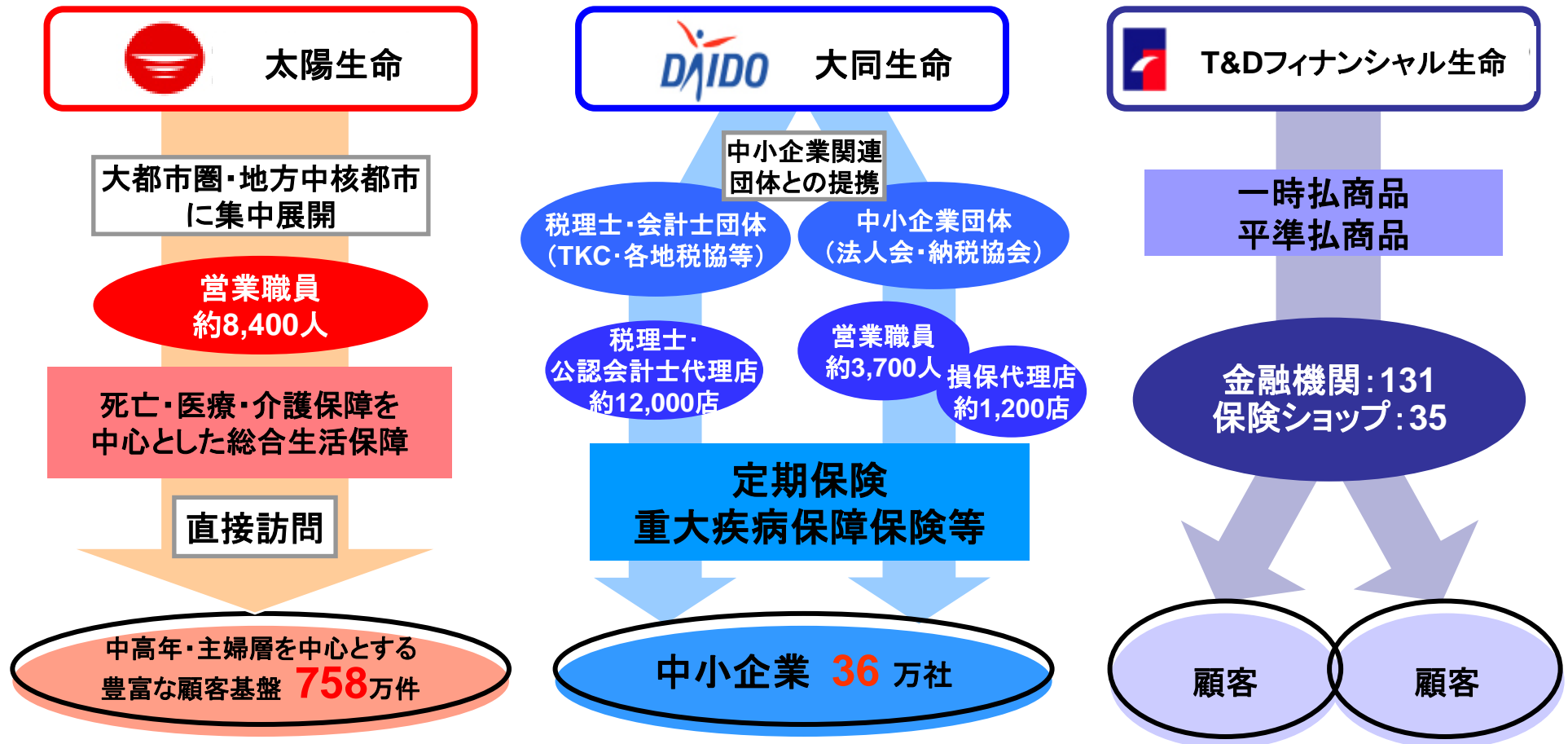
* T&D: 太陽生命 + 大同生命(Jタイプ及びTタイプを含む) + T&Dフィナンシャル生命

** 出所: 生命保険協会「生命保険事業概況」より当社作成。2004年3月期の新契約高、保有契約高を100として指数化。新契約高、保有契約高は、個人保険、個人年金保険及び大同生命のJタイプ及びTタイプの就業障がい保険金額。新契約高には転換による純増加を含みます。また、かんぽ生命は含んでいません

2. T&D保険グループの独自戦略

T&D保険グループの成長を支える優位性

■ 差別化した営業戦略により高い競争力を確保。



* 2015年3月末現在

“くみたて自由な保険” 保険組曲Best

① お客さまのニーズに合わせた自由な設計

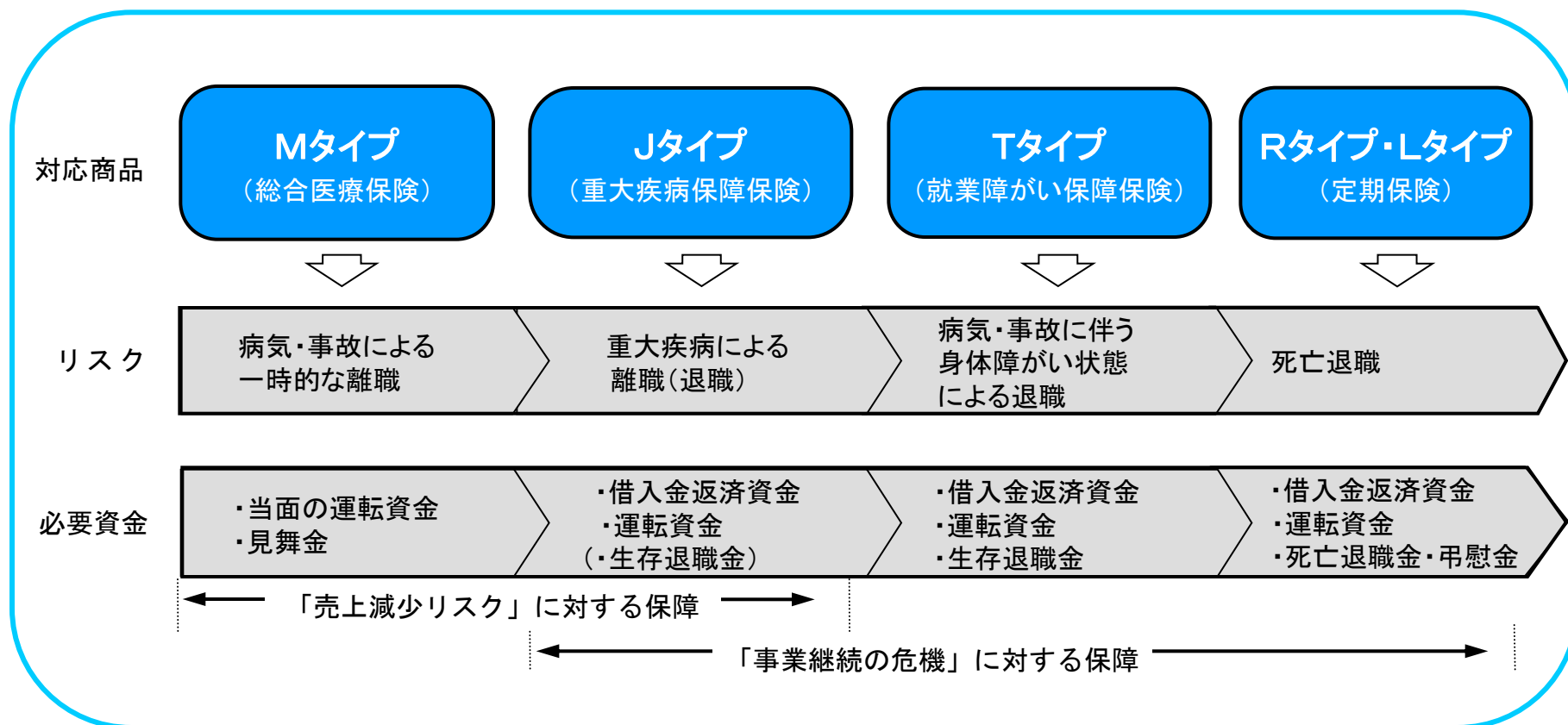


② 加入後のニーズ変化に応じた自由な見直し

③ 最新の保障を導入
(介護保障、手術保障、入院一時金保障)

④ 従来の商品に比べ低廉な価格での提供

中小企業を守る充実した商品ラインアップ



ターゲットとする顧客セグメントを明確化した商品ラインアップ

ターゲット	商品ラインアップ	主な特徴
退職後世代向け商品	生涯プレミアムシリーズ	積立金額を取り崩さずに毎年の追加額を確保できる一時払終身保険シリーズ
	生涯プレミアムジャパン3	円建資産への投資に興味のあるお客様向けの商品
	生涯プレミアムワールド3	国内の金利と比較して高金利である海外の金利や為替に興味のあるお客様向けの商品
就労世代向け商品	みんなにやさしい終身保険	<ul style="list-style-type: none"> ・相続対策ニーズに対応した一時払い終身保険 ・50歳から95歳までの幅広い契約年齢と職業告知のみで契約可能なシンプルでわかりやすい設計
	家計にやさしい収入保障	<ul style="list-style-type: none"> ・万一の場合に収入保障として遺族年金または高度障害年金をお支払いする平準払い商品 ・非喫煙者健康体料率の適用により業界最低水準の保険料を実現

ベストシニアサービス(太陽生命)

◇ シニアも含め、すべてのお客様・ご家庭に最優の生活保障をお届けする生命保険会社となる。

ベストシニアサービスプロジェクト

「最優の生活保障をご家庭にお届けする生命保険会社を目指す」の実現に向けて、家庭の中でも特にシニア層へのサービスを強化する。

シニア層へのサービスを強化することで、既にご加入いただいている若年層のお客様の安心感にもつながり、長く契約を続けていただく。

シニア層へのサービスを強化することで、そのご家族である若年層に対しても世帯内深耕をはかる。

【ベストシニアサービス主な取り組み】

【お客様対応事務】

TV電話機能を活用した本人確認、代筆・代行手続き拡大等シニアにやさしい事務スキームの実現。

『シニア専用保険ダイヤル』の設置

【商品】

シニアのニーズにマッチした新商品の開発等シニアマーケットにおける競争力の向上。
医療保障系商品の加入年齢上限を75歳から85歳へ拡大

【付帯サービス】

シニアのお客様が利用しやすくわかりやすいサービスの開発等業界最高水準のシニア向けオリジナルサービスの開発。

【帳票類】

デザインガイドラインを作成し全帳票(約3,000)を見直す等全ての帳票のデザインを統一化しシニアにやさしいものへ改善。

ベストシニアサービス(大同生命)

< 目指す姿 >

シニアのお客さまへより配慮した「わかりやすく利便性の高いサービス」の提供・拡充

1. わかりやすさの向上

わかりやすく丁寧な説明と
十分な意思確認

2. 利便性の向上

簡便な手続きや手続き機会の
適切な提供

3. 接遇・ホスピタリティの向上

シニアのお客さまが安心して
手続きいただける環境の提供

< 高齢のお客さまへの対応指針 >

[理解の促進] [意思の確認] [環境への配慮]

< 5つの取組み >

(1) ご加入時

募集時の確実な意思確認 等

- ・ご家族同席等の意思確認の取組み
- ・説明状況の記録・管理

(2) 保険期間中

契約内容の確認、住所管理の充実 等

- ・ご家族登録制度の創設
- ・通信先情報の拡充

(3) お支払時

確実・迅速な保険金等のお支払い 等

- ・保険金等の請求有無等の一斉確認
- ・指定代理請求特約の付加推進

(4) お客さま向けご案内書面等の改善

規程等の整備、ご案内書面・事務取扱の改善 等

- ・お客さまサービス方針等の改正
- ・ご案内書面・手続書類の改訂や必要書類の簡素化
- ・代筆基準の明確化

(5) フォロー態勢等

手続きに関するフォローの充実や 親切・丁寧な対応の意識向上 等

- ・郵送手続時のフォロー態勢の充実
- ・コールセンター機能の拡充
- ・マナーや応対に関する研修の拡充

3. T&D保険グループ 中期経営計画 (2014年4月～2016年3月)

新たな挑戦(Try)と発見(Discover) ～グループ力の結集～

中期経営計画のポイント

- 2014年4月からスタートした中期経営計画の2カ年を「金融危機後に回復させた高い利益水準を維持しつつ、安定的・持続的な成長に向けた基盤強化期間」と位置付け、主要方針として以下に取り組む

- ✓ 持株会社のもと、3つの生命保険会社が独自性・専門性を最大限発揮
- ✓ コアビジネスである国内生命保険事業を最優先
- ✓ ERMの推進

グループ全体戦略～T&D保険グループの目指す姿～

グループ 経営理念

Try & Discover（挑戦と発見）による価値の創造を通じて、人と社会に貢献するグループを目指します。

グループ 経営ビジョン

お客さまからの 視点

私たちは、最優の商品・サービスの提供により、お客さま満足度のトップを目指します。

株主・投資家・市 場からの視点

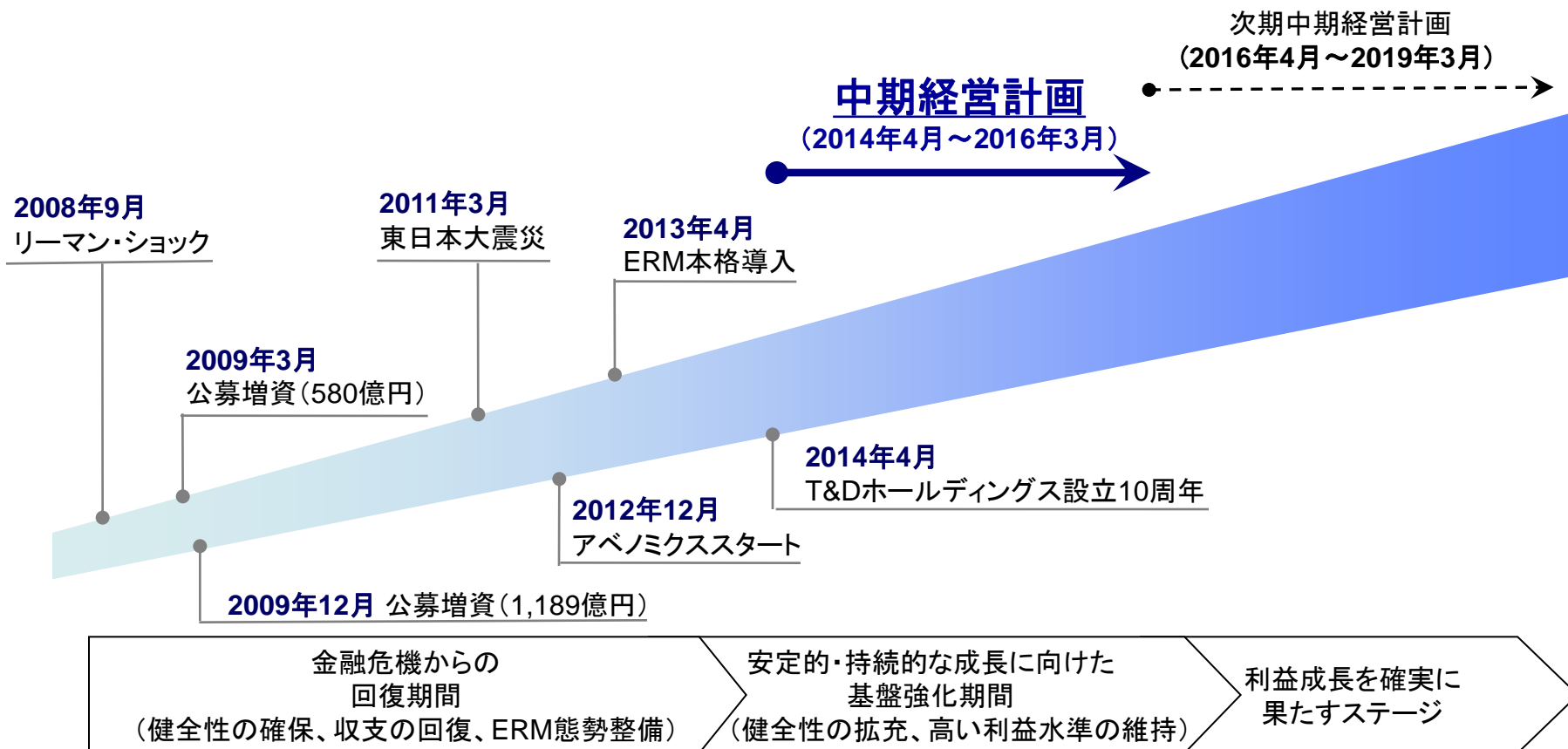
私たちは、成長に向けた新たな挑戦により、安定的・持続的に企業価値を向上させ、確固たる存在感のある大手生保グループを目指します。

グループ 全体方針

1. 持株会社のもと、異なるビジネスモデルを有する3つの生命保険会社が、独自性・専門性を最大限発揮することで、グループ企業価値の向上を実現します。
2. コアビジネスである国内生命保険事業でのプレゼンス向上を最優先事項とし、成長を達成します。
3. ERMのフレームワークに沿って、持続可能なビジネスモデルを強化します。
4. コアビジネスである国内生保事業の成長性を強化・拡大することを目的に、提携・M&Aの機会を追求します。
5. 将来的な国内生保事業の補完として、海外生保事業や周辺事業へ事業投資等を行い、中長期的な成長を志向していきます。

グループ全体戦略～中期経営計画期間の位置付け～

- 中期経営計画期間(2年間)は、「金融危機後に回復させた高い利益水準を維持しつつ、安定的・持続的な成長を追求するための基盤強化期間」と位置付け。



主要経営指標

■ 主要経営指標すべてにおいて、順調な進捗。

主要経営指標 (グループ連結)	目標水準 ^(*1)	2015/03実績
企業価値(EV)	EV 2兆2,000億円以上 (2016年3月期末) (ROEV7.5%を超える安定的・持続的な成長)	EV: 2兆2,980億円 (ROEV: 16.7%)
利益(財務会計)	実質利益 ^(*2) 770億円以上 (2016年3月期)	実質利益 942億円
契約業績	保有契約高 ^(*3) 63兆円以上 (2016年3月期末)	保有契約高62.1兆円

(*1)金融環境等の外部環境の前提が設定時の水準から大きく乖離することなく推移すると仮定。

(*2)実質利益は、当期純利益に、負債性内部留保(危険準備金繰入額、価格変動準備金繰入額)のうち法定繰入額を超過した額を加算して算出(税引後)。

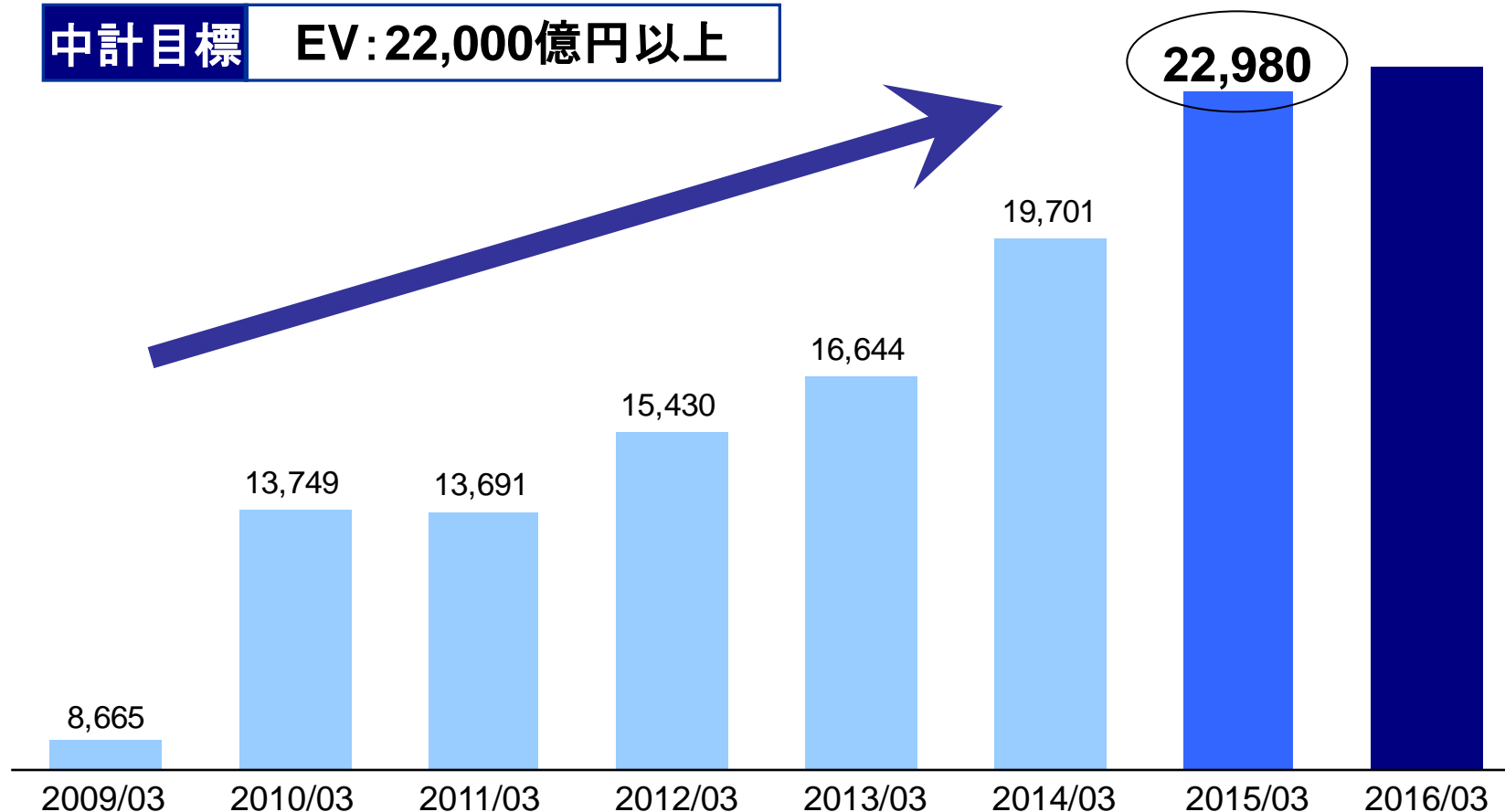
(*3)保有契約高は、個人保険・個人年金保険および大同生命のJタイプおよびTタイプを含む広義ベースとしています。

企業価値(EV)

- ROEV7.5%を超える安定的・持続的な成長を目指す。

(単位:億円)

中計目標 EV:22,000億円以上



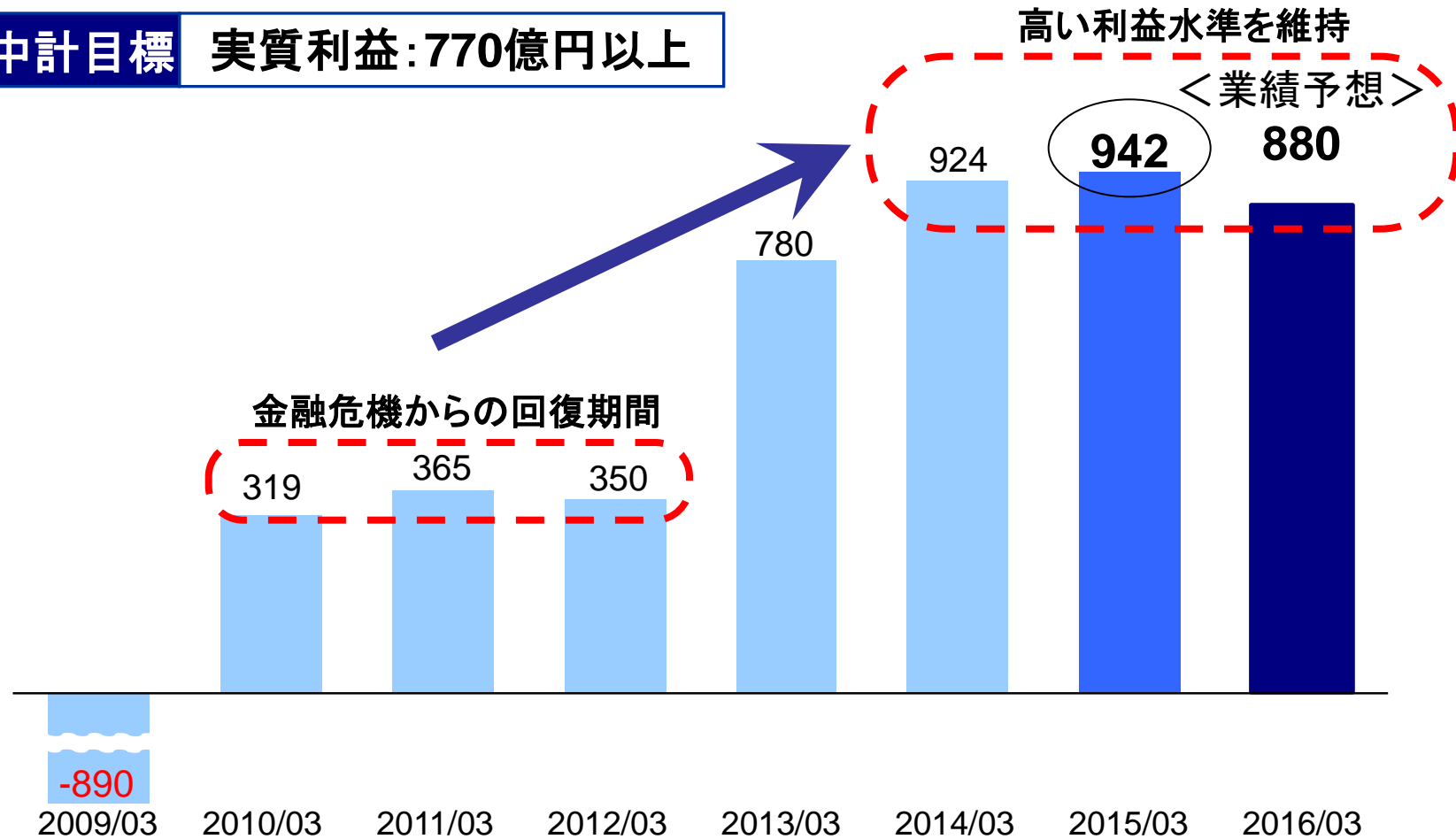
*2009年3月期~2011年3月期はEEV、2012年3月期以降はMCEV(Group MCEV)。

利益(実質利益)

- 金融危機後に回復させた高い利益水準を維持する。

(単位:億円)

中計目標 実質利益:770億円以上



*実質利益は当期純利益に負債内部留保の超過繰入(税引後)を加えた額。2009年3月期は当期純損失としています。

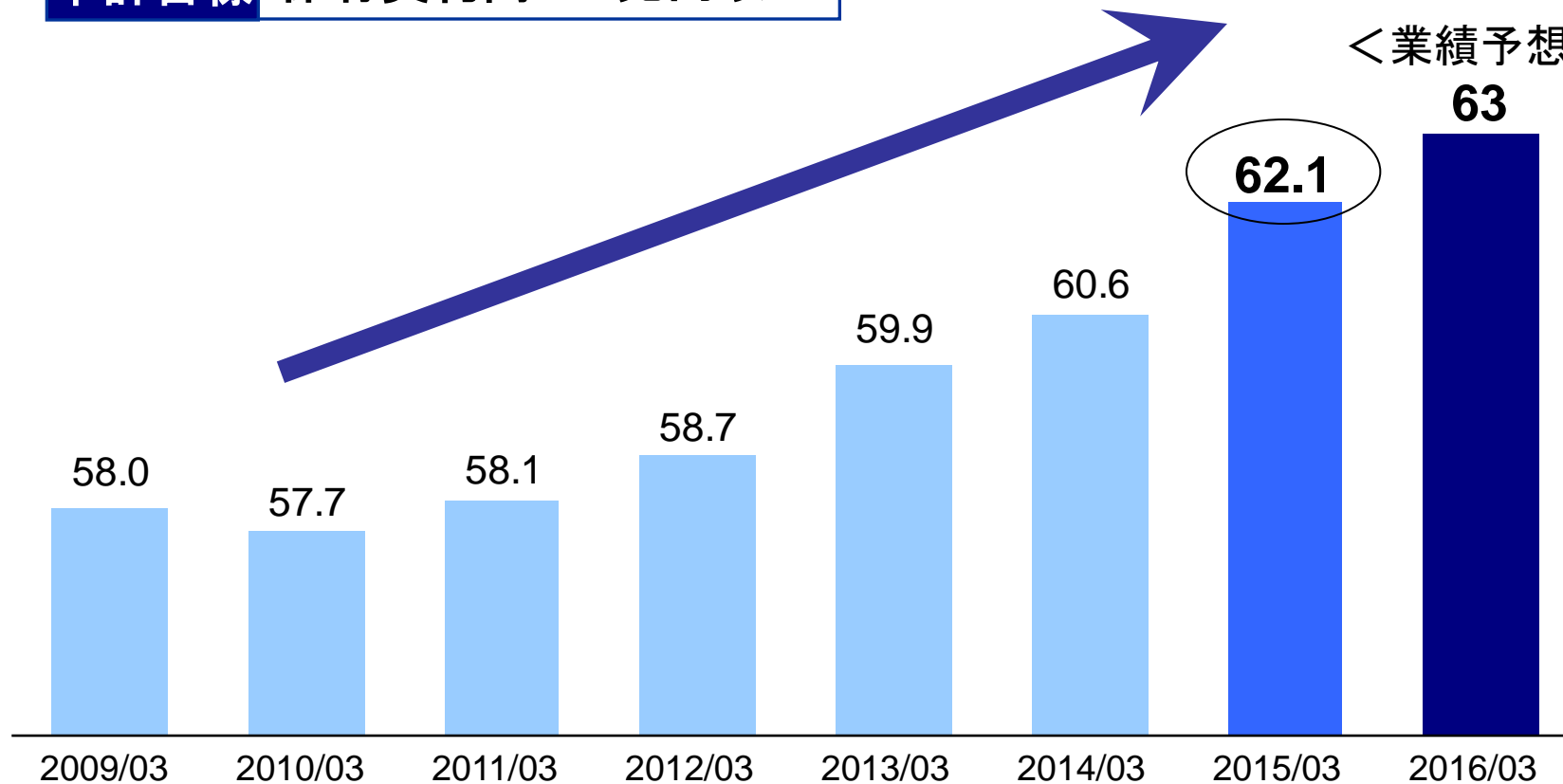
契約業績（保有契約高）

- 安定的・持続的な保有契約高の純増を目指す。

（単位：兆円）

中計目標 保有契約高：63兆円以上

<業績予想>



*保有契約高は、個人保険・個人年金保険および大同生命のJタイプおよびTタイプを含む広義ベースとしています。

4. 2015年3月期決算の概要

2015年3月期決算の概要

T&Dホールディングス連結

(億円)

	2015年 3月期	2014年 3月期	増減率
経常収益	24,121	20,857	15.7%
経常利益	1,889	1,862	1.5%
当期純利益	942	789	19.3%
一株あたり配当金	25円	25円	-

生保3社単体合算

(億円)

	2015年 3月期	2014年 3月期	増減率
新契約高	72,272	66,398	8.8%
保有契約高	621,177	606,998	2.3%
保険料等収入	19,557	16,078	21.6%
基礎利益	1,827	2,102	▲ 13.1%
順ざや額	345	333	3.8%

* 新契約高および保有契約高は、個人保険・個人年金保険および大同生命のJタイプおよびTタイプを含む広義ベースとしています。また、新契約高には、転換による純増加を含みます。

- 中核生保3社ともに高い健全性を維持。

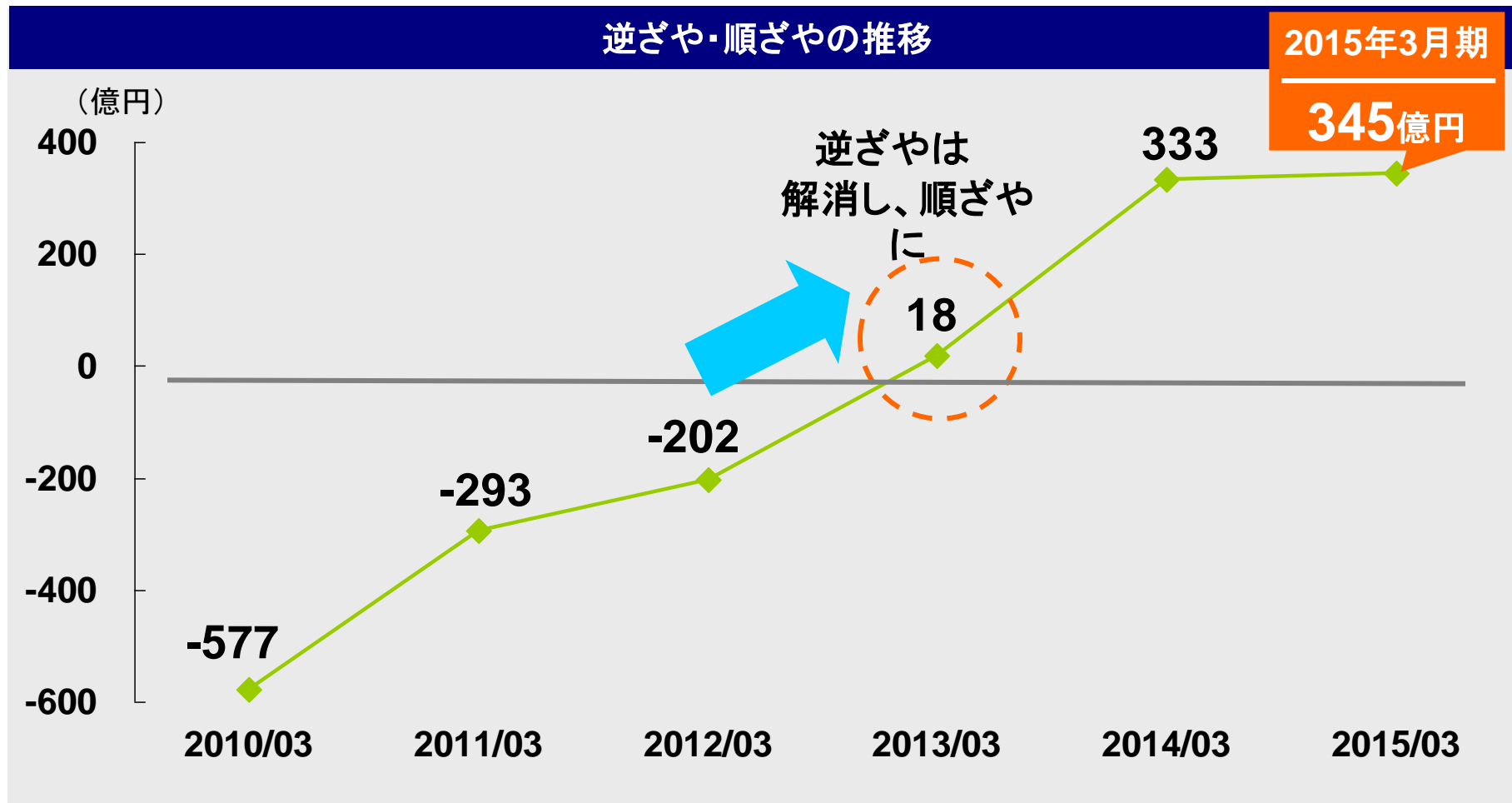
	ソルベンシー ・マージン比率 ^{*1}	格付け(R&I) ^{*2}
太陽生命	993.9%	A ⁺
大同生命	1,363.7%	A ⁺
T&Dフィナンシャル生命	1,271.9%	A ⁺

^{*1} 2015年3月末現在

^{*2} 2015年6月末現在

逆ざやから順ざやへ

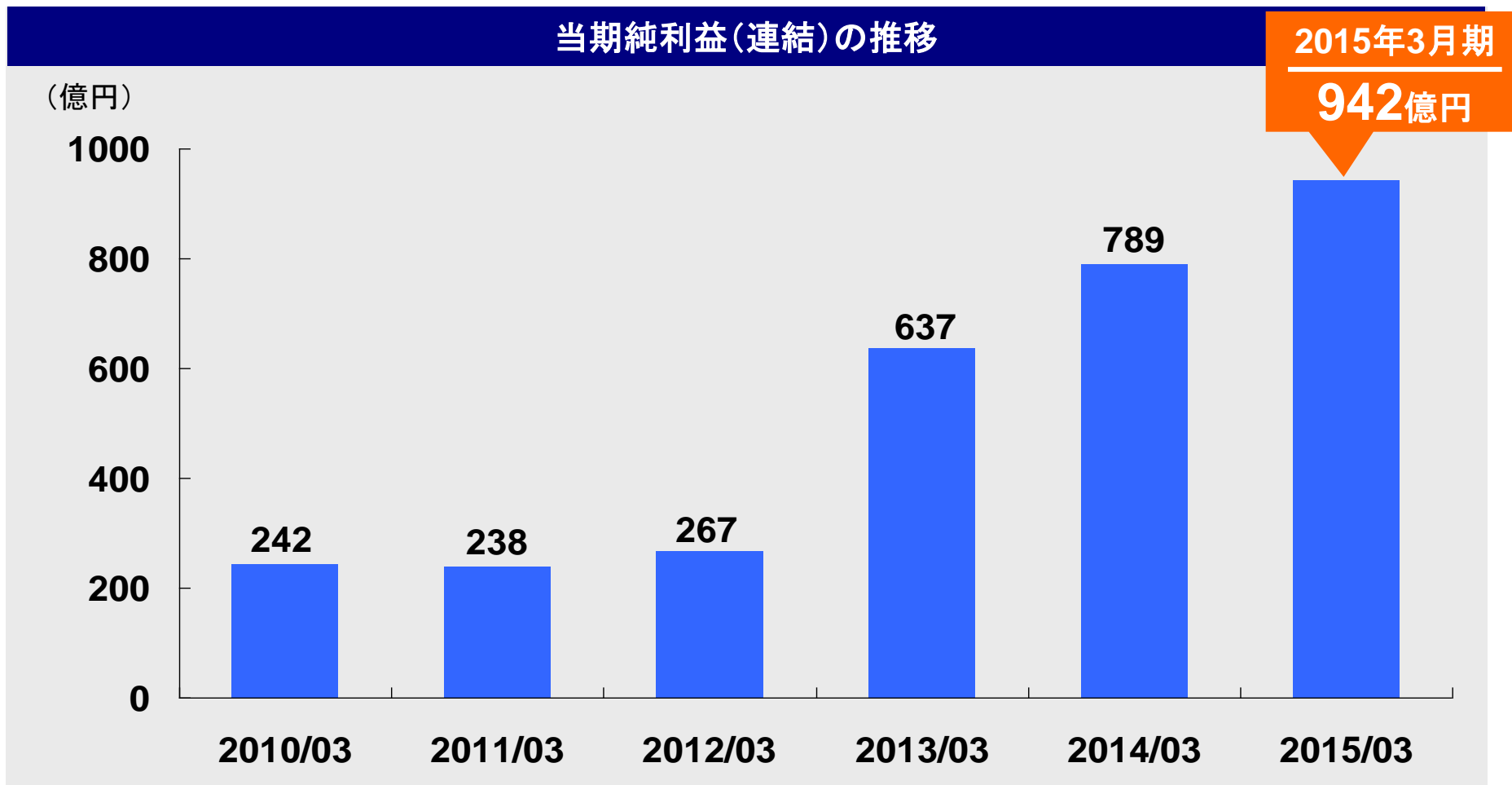
■ 2013年3月期から順ざやへ転換。



* 逆ざや額・順ざや額は生保3社(太陽、大同、T&Dフィナンシャル)の合算値

当期純利益の推移

■ 当期純利益は過去最高を更新



5. 株主還元

株主還元方針

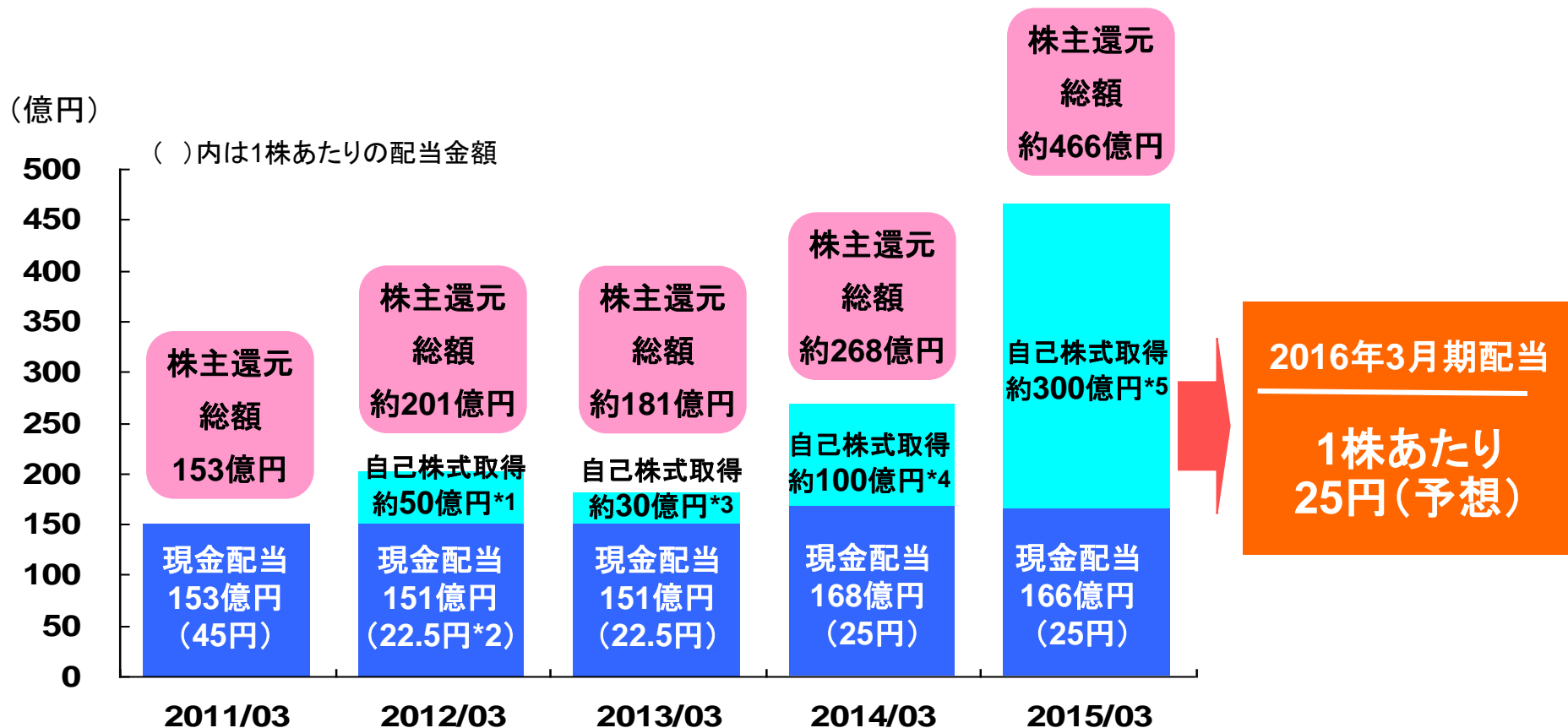
中長期的に実質利益*の30%程度の株主還元を実施

安定的な「現金配当」 + 機動的な「自己株式の取得」

* 実質利益 = 「当期純利益」 + 「負債内部留保の超過繰入額(税引後)」

株主還元実績

■ 2015年3月期は1株あたり25円。



*1 2011年11月~12月に実施。*2 2011年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。

*3 2013年3月期決算に係る株主還元として、2013年5月に実施。*4 2014年3月期決算に係る株主還元として、2014年5月~6月に実施。

*5 2015年3月期決算に係る株主還元として、2015年5月~9月に実施予定。

6. 2016年3月期 通期業績予想

2016年3月期 通期業績予想

通期業績予想(T&Dホールディングス連結)

	2016年3月期 通期予想	2015年 3月期	増減率	2014年3月期 (参考)
経常収益	18,700	24,121	▲ 22.5%	20,857
経常利益	1,670	1,889	▲ 11.6%	1,862
親会社株主に帰属する当期純利益	780	942	▲ 17.2%	789
一株あたり配当金	25円	25円	-	25円
<参考>実質利益	880	942	▲ 6.6%	924

(億円)

通期見通し(生保3社単体合算)

	2016年3月期 通期見通し	2015年 3月期	増減率	2014年3月期 (参考)
新契約高	71,000	72,272	▲ 1.8%	66,398
保有契約高	633,100	621,177	1.9%	606,998
保険料等収入	14,700	19,557	▲ 24.8%	16,078
基礎利益	1,520	1,827	▲ 16.8%	2,102
順ざや額	310	345	▲ 10.1%	333

(億円)

* 新契約高および保有契約高は、個人保険・個人年金保険および大同生命のJおよびTタイプを含む広義ベースとしています。また、新契約高には、転換による純増加を含みます。

2016年3月期 通期業績予想：生保3社

(億円)

	大同生命			太陽生命			T&Dフィナンシャル生命			
	2016年 3月期	2015年 3月期	2014年 3月期	2016年 3月期	2015年 3月期	2014年 3月期	2016年 3月期	2015年 3月期	2014年 3月期	
通期業績予想	経常収益	8,900	9,810	8,933	8,200	10,611	8,572	2,300	3,821	4,686
	保険料等収入	7,300	7,927	7,128	5,400	8,652	6,552	2,000	2,977	2,397
	経常利益	810	974	913	770	676	722	70	224	209
	基礎利益	970	1,076	1,106	560	681	726	▲ 20	69	269
	当期純利益	550	511	359	270	279	263	40	146	159
通期見通し	新契約高	41,000	40,638	36,981	26,700	28,407	26,966	3,300	3,226	2,449
	保有契約高	388,900	381,567	372,556	225,300	221,545	215,956	19,000	18,064	18,485
	順ざや額	230	241	243	110	136	117	▲ 30	▲ 32	▲ 28
	解約失効率	6.7%	6.39%	6.89%	5.7%	5.88%	5.97%	4.0%	5.62%	8.56%

* 新契約高および保有契約高は、個人保険・個人年金保険。また、新契約高には、転換による純増加を含みます。
 なお、大同生命の新契約高および保有契約高は、JタイプおよびTタイプを含む広義ベースとしています。

(参考)開示ベース

(億円)

	大同生命		
	2016年 3月期	2015年 3月期	2014年 3月期
新契約高	34,200	34,068	32,253
保有契約高	365,800	363,923	360,626

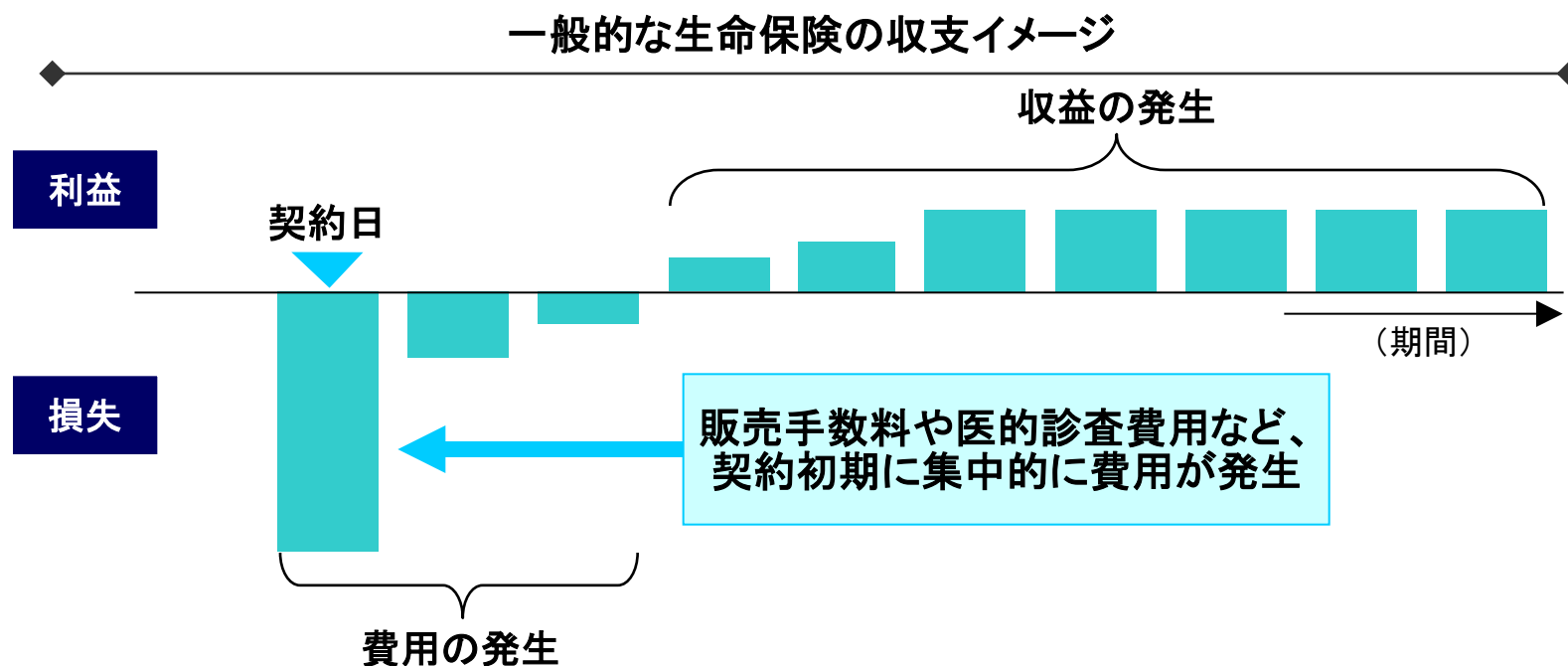
7. まとめ

- T&D保険グループの生保3社は、他社とは差別化した「市場×販売チャネル×商品」が三位一体となった独自のビジネスモデルにより、業績を伸ばしている。
- 当期純利益および保有契約高*は、2015年3月期に過去最高を記録。*大同生命のJ・Tタイプを含む広義ベース
- グループコアビジネス(国内生保事業)での成長・事業投資(提携等を含む)による成長機会の追求を通じて、企業価値の安定的・持続的な増大を目指す。

参考資料

生命保険会計の特殊性

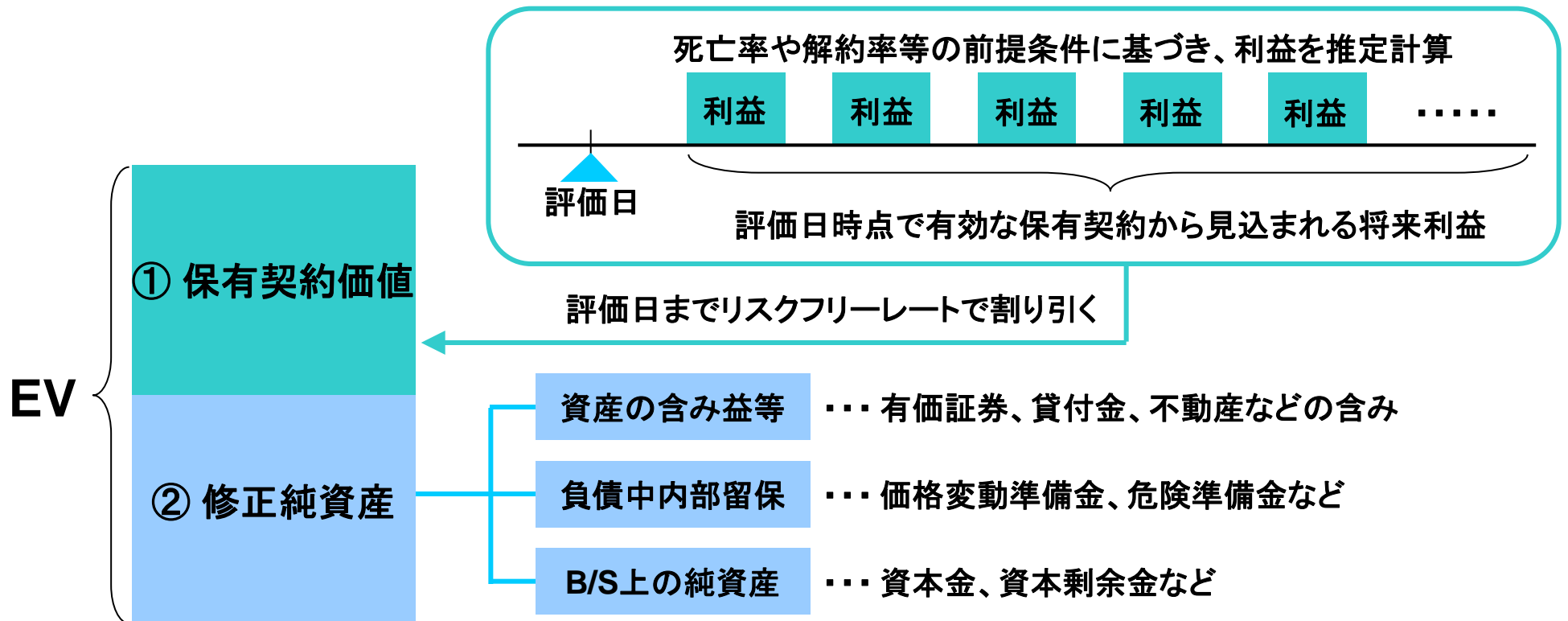
- 生命保険の契約期間は長期に亘るため、収益と費用の発生の認識にズレがある。
- 単年度の会計では、契約業績が好調であれば収益が減少、不調であれば費用が減少し収益が増加。



エンベディット・バリュー(EV)とは

- EV(エンベディット・バリュー)とは、生命保険会社の評価日時点での企業価値(時価)を推定計算したもの。

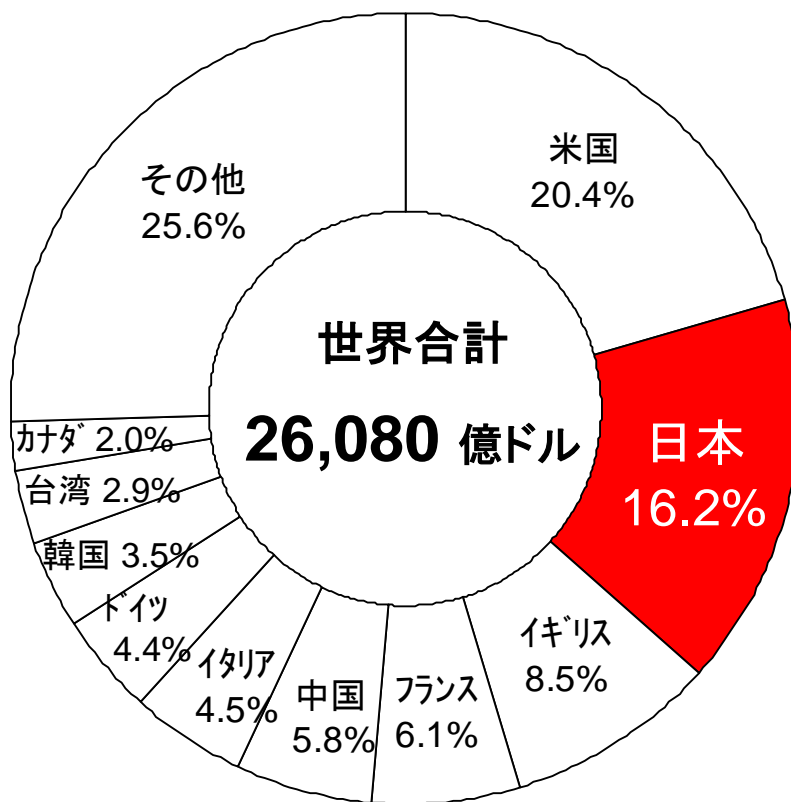
$$EV = \text{① 保有契約価値} + \text{② 修正純資産}$$



日本の生命保険市場の魅力①市場規模

■ 日本の生命保険市場は世界第2位の市場規模。

<国別シェア(収入保険料)>



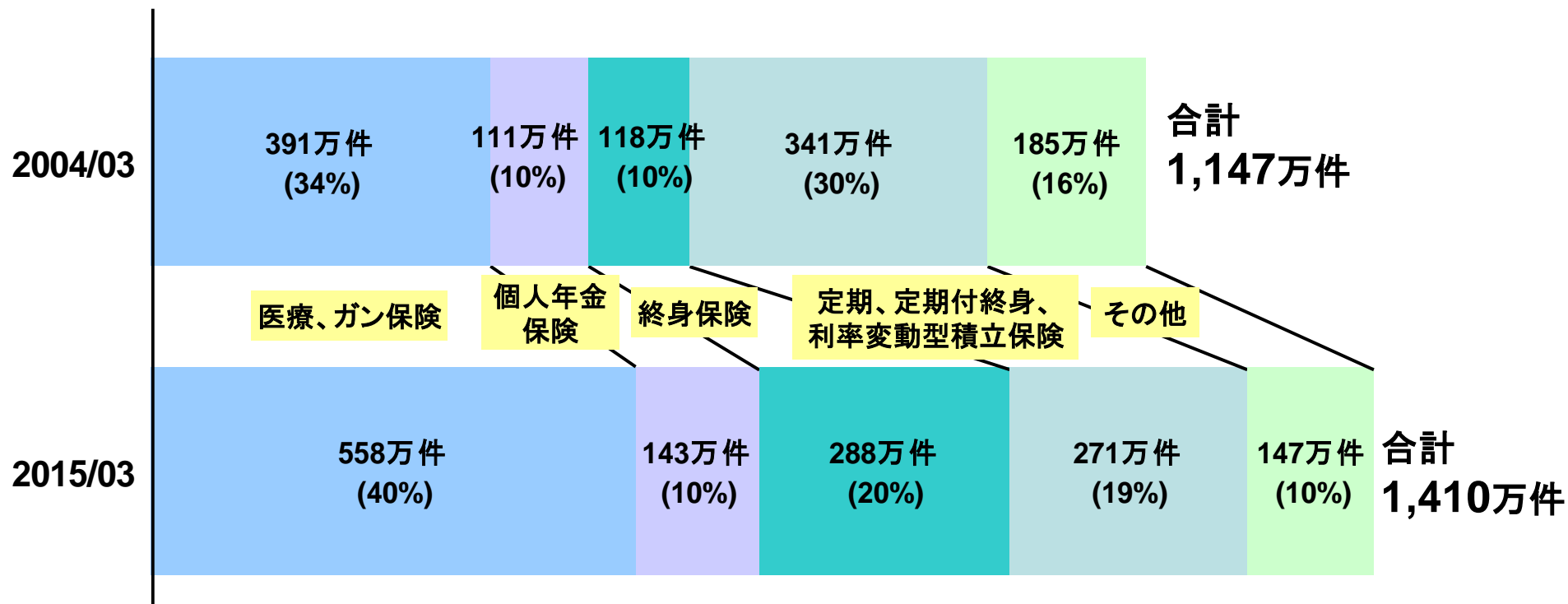
	収入保険料 (億米ドル)	シェア
1 米国	5,328	20.4%
2 日本	4,227	16.2%
3 イギリス	2,228	8.5%
4 フランス	1,601	6.1%
5 中国	1,521	5.8%
6 イタリア	1,179	4.5%
7 ドイツ	1,143	4.4%
8 韓国	912	3.5%
9 台湾	750	2.9%
10 カナダ	523	2.0%
11 その他	6,664	25.6%
世界合計	26,080	100.0%

出所: Swiss Re, sigma No.3/2014 "World insurance in 2013" より当社作成

日本の生命保険市場の魅力②ニーズの変化

- 遺族保障ニーズは縮小しているものの、生存保障（医療保障、老後資金）ニーズや相続対策ニーズが増加。

<保険種類別新契約件数(2004年3月期と2015年3月期の比較)>



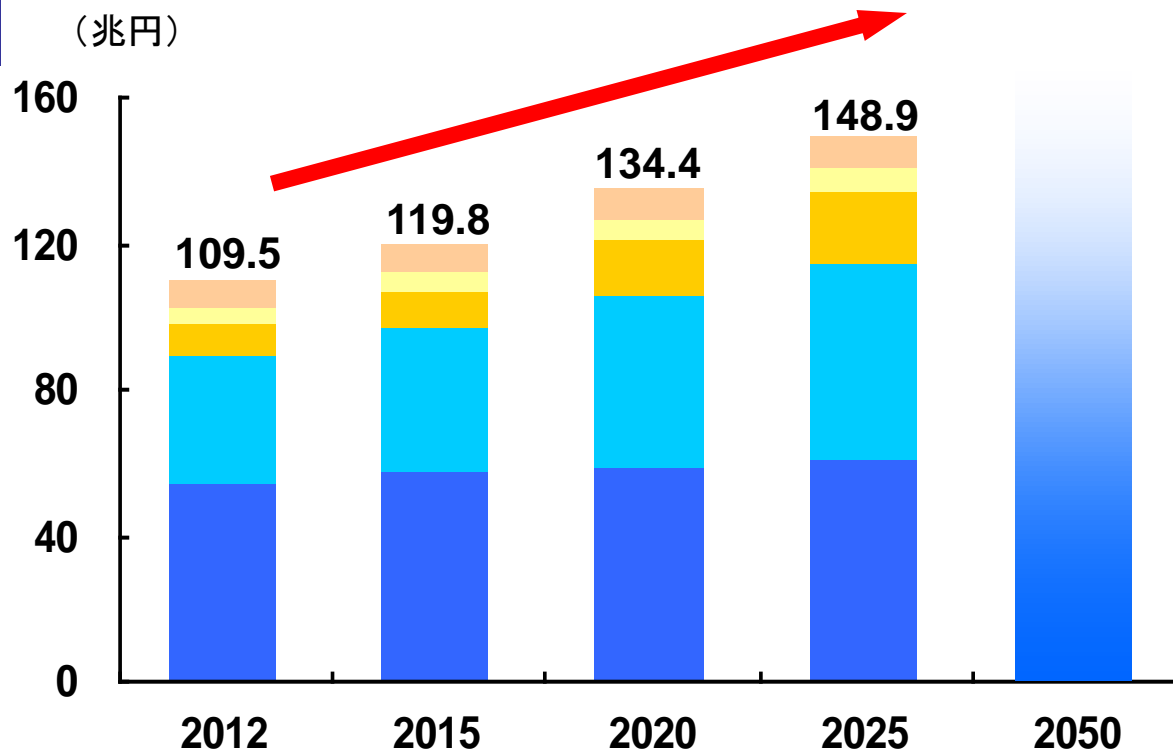
*出所:生命保険協会「生命保険事業概況」より当社作成
保険種類別新契約件数は、個人保険、個人年金保険の合計。転換契約は含んでいません。また、かんぽ生命は含んでいません

日本の生命保険市場の魅力③将来性

- 公的保障を補完する私的保障として、民間生保の役割は将来的に一段と高まる可能性。

<社会保障給付費の将来推計>

- その他
- 子供・子育て
- 介護
- 医療
- 年金

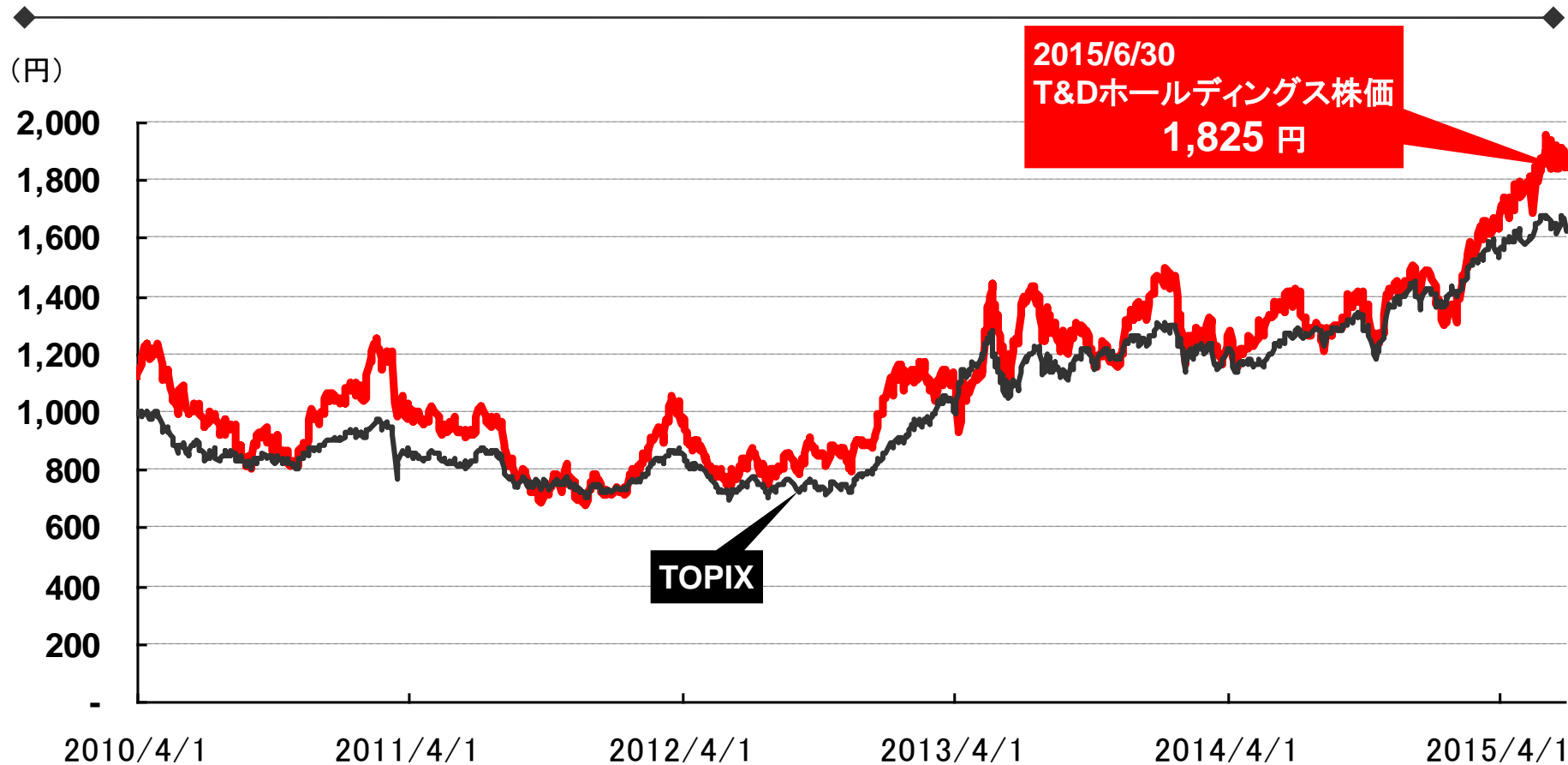


老年人口(65歳以上)/生産年齢人口(15歳~64歳)	2012	2015	2020	2025	2050
	1人/2.6人	1人/2.3人	1人/2.0人	1人/1.9人	1人/1.3人

* 出所:厚生労働省「社会保障に係る費用の将来推計の改定について」(2012年3月) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計」(2012年1月推計)より当社作成

T&Dホールディングス 株価推移

当社株価とTOPIXの推移



*2011年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。上記グラフは分割後の株価を表示しています

本資料への問い合わせ先

株式会社 T&Dホールディングス

経営企画部 IR課

電話：03 (3434) 9142

<http://www.td-holdings.co.jp/>

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、計画や予想と異なる可能性があることにご留意ください。